

同窓会報

No.17



豊橋技術科学大学



▲交流試合風景

▼ラグビー部創部20周年記念パーティー (H11.4, 豊橋勤労福祉会館にて)



2000

最近の大学事情



豊橋技術科学大学同窓会名誉顧問

学長 後藤圭司

昨年(1999年)は11月にアジ化ナトリウム盗難事件が起こり大変な年でした。今年は大過なく過ごせることを願っていますが、いま大学は全国で大改革の時期を迎えています。その事情を含めて本学の状況を時系列の順に述べさせていただきます。

平成10年12月にエコロジー工学研究実験棟の建設が始まり、現在まだ工事中です。平成11年4月には、日本学術振興会から次世代半導体開発分野で、本学は日韓学術交流の日本側拠点大学に選ばれました。期間は5年間、最長で10年間の予定で学術交流がスタートした所です。5月にはマルチメディア・ユニバーシティー・パイロット事業の報告会を開きました。既に昨年6月に経過報告書をまとめており、この事業について本年度中には外部評価を受ける予定になっています。5月から6月にかけて、「1、3年次入学者の教育方針について」各系での検討を依頼し、その結果を教官会で討論しました。引き続き将来計画調査会で各系の、さらには本学の進むべき道について具体的な方策をまとめ、後述の第三者評価を受ける準備をする必要があると考えます。7月には、総合研究実験棟の新築工事が始まりました。これは博士課程と昨年4月に開所した未来技術流動研究センターが入る建物であり、来年12月に完成すると、本学の教育研究に必要な建物は一応揃うことになります。平成8年に開学20周年を祝った本学は既に壮年期に入っており、今後は教育研究の一層の充実が求められます。以上が平成11年8月までの経過報告です。

昨年10月の大学審議会答申「21世紀の大学像

と今後の改革方策について」によれば、教育研究の質の向上、教育研究システムの柔構造化、運営システムの改革・改善、第三者による外部評価の義務化、などの改革・改善を行なって競争的環境の中で個性が輝く大学、さらには国際的に認められる大学作りが求められています。

文部省は平成12年4月に第三者評価機関を設置する予定です。全ての国立大学はこの機関の評価を受ける義務があり、評価結果に基づいて資源が配分されるようになるそうです。さらに国立大学の独立行政法人化について、当初文部省は、大学の自主性を尊重しつつ、大学改革の一環として検討し、平成15年までに結論をうる、としていましたが、平成13年から始まる国家公務員の定員削減との関連もあり、来年夏までには結論を出す方針を固めた、との新聞報道もなされています。いずれにしてもここ1、2年のうちには国立大学の行方が決まりそうであり、21世紀初頭に予想される流動的で複雑化して不透明な時代、国際競争力が強く求められる時代、に対応できる「知」の再構築を目指して大改革がなされようとしています。さらに工学分野では、国際的な技術者資格を認定することを目指して、まず国内各大学の技術教育プログラムを認定する日本技術者教育認定機構が発足した所であり、来年秋には本格的な活動を始めるようです。大学は教育研究だけでなく、社会への貢献が強く求められています。本学はこれに向けて種々の対外事業を行なっています。企業で活躍中の卒業生の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

学内近況報告

機械システム工学系

北村 健三

朝晩めっきり寒さを感じる頃となってきましたが、卒業・修了生の皆様には、お変わりなくご活躍のことと存じます。第一工学系の近況について報告させていただきます。

まず教職員の移動ですが、2年間の予定で材料力学講座に助教として赴任されておられました陳建橋先生が、任期満了に伴い、本年4月に母国中国の武漢市にある華中理工科大学に帰任されました。第2講座の鈴木新一先生には、昨年10月より文部省在外研究員としてカルフォルニア工科大学に滞在されておりましたが、10ヶ月間の滞在を終え7月末に無事本系に戻って来られました。入れ替わり、第2講座の山本和弘先生が8月より1年間の予定で、米国およびイギリスにて在外研究のため滞在されております。その他の教職員につきましては移動は無く、別表に示す陣容で研究・教育に日々励んでおります。

つぎに平成12年3月卒業・修了予定者の就職状況ですが、本年は空前の不況で就職活動の困難さが予想されていましたが、第一工学系に関する限り、会社数、

求人数とも前年並みの水準を何とか確保でき、大部分の学生は夏休み前には内定通知を受け取ったようです。これもひとえに卒業生の皆さんの日頃のご活躍の賜物と感謝致しております。今後もおご健康に留意され、職務に励まれるよう期待しております。また暇を見つけて大学の研究室に元気な顔を見せて下さい。

[第1講座(熱・流体工学講座)]

教授：三田地紘史(系長)、日比 昭
 助教授：中川勝文、北村健三、柳田秀記
 講師：鈴木孝司
 助手：中西康彦

[第2講座(エネルギー変換工学講座)]

教授：小沼義昭、蒔田秀治、高木章二
 助教授：野田 進、鈴木新一
 助手：山本和弘、関下信正、内山直樹

[第3講座(機器設計学講座)]

教授：竹園茂男、本間寛臣、上村正雄
 助教授：埜 克巳、畔上秀幸、関東泰祐
 助手：感本広文、武市嘉紀(技術開発センター)
 教務職員：李 長生

[技 官] 徳増 学、森川正治、神谷昌宏

[系事務] 加藤悟司、野亦真理子

生産システム工学系

土谷 浩一

卒業生、修了生の皆様、如何お過ごしでしょうか？生産システム工学系では、本年度から系長になられた小林教授以下、教職員一同、元気で研究・教育に励んでおります。特に本年度は教官共同執筆で“生産システム工学入門”という教科書を発行し、1年生の講義等に活用しております。また系ホームページ(<http://plast.tutpse.tut.ac.jp/pse/index.html>)の充実、英文・和文の系紹介パンフレット、ポスターの作成など外部への情報発信の努力も行っております。

教職員の移動についてお知らせいたします。加工学講座では、接合加工研究室の田中康德助手が3年間の任期を終え、古巣の有明工業高等専門学校へと戻られました。また精密加工研究室の高巢助教授が退職され、京都で精密機器開発のベンチャーを開業されました。また同研究室の池野順一助教授が10月に埼玉大学へと転出されました。

材料工学講座は、材料保証研究室の井上直也教務職員が退職、日産自動車へ就職され、変わってはやはや修士の森田繁樹先生が新メンバーに加わりました。

生産計画学講座では、システム制御研究室に同研究で博士号を取得されたばかりの矢野賢一先生が新しく助手に着任されました。同研究室にはさらに10月から

岐阜工業高等専門学校より北川秀夫助教授が着任されました。退職・転出された先生方の新任地での今後の一層のご活躍を祈念いたします。

独立行政法人化・技術移転・少子化による学生数減少など、大学も激動の時代に入りつつあります。卒業生の皆様には、今後ともより一層の御支援・御協力を頂けますよう、よろしく願いいたします。

末筆となりましたが、皆様のご健康と今後の益々の御発展・御活躍をお祈りいたします。

[加工学講座]

教授：星鐵太郎(工作センター長)、堀内 宰、森謙一郎(系長補佐)
 助教授・講師：牧清二郎、福本昌宏
 助手・技官：原田泰典、小楠和彦

[材料工学講座]

教授：小林俊郎(系長)、川上正博、梅本 実、新家光雄
 助教授・講師：竹中俊英、土谷浩一、戸田裕之、横山誠二
 助手・技官：福永啓一、森田繁樹、白井宏始

[生産計画学講座]

教授：北川 孟、清水良明、寺嶋一彦
 助教授・講師：三宅哲夫、北川秀夫、崔 文田、堀畑 聡(工作センター)

助手・技官：矢野賢一、北島禎二、椿 正己

[事務官] 永井 静

電気・電子工学系

長尾 雅行

修了生・卒業生の皆さん、お元気ですか？ 皆さんきっと自分の目標に向かってまっしぐらに活躍のことと思います。

さて、電気・電子工学系では平成11年3月に次の6名の方が技科大を去られました。電気・電子基礎大講座では河野健二教務職員が工学博士の学位を取られた後、バーミンガム大学（イギリス）の研究員へと転出されました。電気システム大講座では昨年の8月にカナダのWaterloo大学から技科大へ赴任されたJayaram助教授が再び母校に戻られました。Jayaram先生はこの間、高電圧工学（4年生）と電気絶縁工学特論（大学院）の講義をカナダスタイルで英語にて実施していただきました。学生君にとって英語を理解し、表現するには、それなりの苦労はあったと思いますが、将来この経験がきっと役に立つと確信しています。電子デバイス大講座では、松本佳宣助手と大島直樹助手がそれぞれ慶応大学、山口大学の講師として転出されました。また、蔵之内真一助手（技術開発センター）は母校の長野高専へ戻られました。事務室では、宇津山千恵事務補助員が4系の峯松助手と結婚のために退職されました。

続いて、4月以降には以下の8名の方々を新しく迎えました。電気・電子基礎大講座では、井上光輝助教授が2年間の東北大学勤務を終えて戻られました。また、6月には中国より張平祥助教授を1年10ヶ月任期で迎え入れました。電気システム大講座では、電力中央研究所より穂積直裕助教授、京都大学より乾義尚助教授、静岡大学より宮野竜一助手（技術開発センター所属、2年任期）を新しくメンバーとして迎え入れ、開学以来、初めてフルメンバーとなりました。電子デ

[電気・電子基礎大講座]

教授：藤井壽崇、英 貢、小川陸郎、太田昭男
助教授：服部和雄、井上光輝、張 平祥
講師：内田裕久
助手：大越昌幸

[電気システム大講座]

教授：恩田和夫、榊原建樹、長尾雅行
助教授：穂積直裕、乾 義尚、滝川浩史
助手：伊藤衡平、村本裕二、見目喜重、宮野竜一
（技術開発センター）
技 官：日比美彦

[電子デバイス大講座]

教授：吉田 明、米津宏雄、石田 誠
助教授：朴 康司、今枝健一、若原昭浩（技術開発センター）
講師：澤田和明
助手：高尾英邦
技 官：足木光昭
秘 書：白井浩子

[事務室] 原 宏充、深井悦子、村田裕美

バイス大講座では、高尾英邦助手を本学博士課程より新任として迎え入れ、8月には分子科学研究所より今枝健一助教授（1年8ヶ月任期）を迎えました。また、事務室では村田裕美事務補助員が着任し、現在は、別表のような構成で教育・研究、学会活動、学内委員会などに、力を合わせて活躍しています。

なお、平成12年3月には、藤井先生が定年を迎えられ、小川先生も任期終了で、技科大を離れられる予定です。

皆さん、母校へどンドン顔を出して下さい。皆さんの元気な姿に会えるのを楽しみに待っています。

情報工学系

伊藤 大雄

卒業生、修了生の皆様、お元気でしょうか。長引く不況で困難も多いかもしれませんが、豊橋技術科学大学出身者の能力を以てすれば、困難を逆に好機に転換させて益々の発展をなさっている方も多数いらっしゃるのでは無いかと推察いたしております。大学の方もこれから激動の時代を迎えて教官一人一人が頑張らないといけないと心を引き締めております。

この1年（98.10.01～99.9.30）の間に情報工学系では2人の新任の先生をお迎えすることが出来ました。4月1日に早坂太一先生を情報処理大講座に助手として、さらに4月2日にラカパン先生を情報システム大講座に助手としてお迎えいたしました。両氏は共に3月まで当学の博士課程に在学しておられました。また、情報処理大講座の助手であった中内茂樹先生が4月1日付けで講師に昇格されました。

一方この期間に2人の先生が転出されました。情報処理大講座の助教授であった戸田尚宏先生が3月31日で辞職され愛知県立大学情報科学部に助教授として、同日さらに情報システム大講座の助手であった黄新民先生も辞職され、愛知技術短期大学に助教授として赴任されました。

2人の有能な先生が出てしまったことは（当学だけ

[計算機大講座]

教授：中川聖一、中島 浩
助教授：梅村恭司
講師：奥山 徹
講師：高田広章
助手：峯松信明、大野和彦
技 官：片岡嘉孝

[情報処理大講座]

教授：白井支朗、金子豊久、宇野洋二
助教授：栗山 繁
講師：片山正純
助手：中内茂樹、廣田光一、福村直博、早坂太一

[情報システム大講座]

教授：宮崎保光、田所嘉昭、横山光雄
助教授：後藤信男、川人祥二
講師：伊藤大雄
助手：上原秀幸、Rakkappan Balasubramanian
教務職員：合志和洋
技 官：宮脇治雄

に限って言えば）損失ですが、新たに2人の強力な人材を得ることが出来、豊橋技術科学大学情報工学系は益々充実いたしております。教職員一同、当学及び世界の科学の発展の為に、これからさらに力を注いでいく所存です。

物質工学系

西宮伸幸

卒業生、修了生の皆さん、お元気でしょうか。ミレニアムの転換期にあたり、それぞれに意義深い人生を再確認されていることと存じます。

さて、物質工学系の近況ですが、人事においては全く変更がありません。昨年同様、右記のような構成です。研究関連でも特に大きな賞の受賞などはありませんが、科研費の獲得、論文の発表、国際会議への参加等、順調です。教育面では、科目名を変更して中身がわかるようにしたり、基礎授業／プロパー授業の割合が教官ごとに大きく異ならないようにしたりする、小改革を断行しました。また、学生用のコンピュートルームを事務室の隣に設け、講座配属前からPCに親しめる環境を整備しました。実践的な人材を世に送り出すべく、鋭意努力しています。

卒論・修論の発表会の発表形式が年毎に目まぐるしく変わっているのが近年の特徴で、平成8年度はほぼ全員がOHP、平成9年度は卒論発表の過半と修論発表のほぼ100%がパワーポイント、平成10年度はOHCが急増してパワーポイントを凌ぎ、OHPも若干復活、といった具合です。就職後、パワーポイントを使ってプレゼンテーションしたら感心された、一目置かれるようになった、との声が聞かれたこともあります。さて、今後はどう推移して行くのでしょうか。卒業生、

[工業無機化学大講座]

- 応用物理化学研究室：亀頭直樹 教授(系長)、
大串達夫 助教授、佐藤裕久 助手
無機材料工学研究室：逆井基次 教授、前田康久 講師、
武藤浩行 助手
無機物性工学研究室：角田範義 助教授、水嶋生智 講師、
大北博宣 教務職員

[工業分析化学大講座]

- 分離定量分析化学研究室：神野清勝 教授(系長補佐)、
平田幸夫 助教授、斉戸美弘 教務職員
生化学研究室：青木克之 教授、吉田祥子 講師、
似内 靖 助手

[工業有機化学大講座]

- 有機材料工学研究室：伊藤浩一 教授、伊津野真一 助教授、
川口正剛 助手
応用有機化学研究室：西山久雄 教授、岩佐精二 助教授、
本山幸弘 助手
複合材料工学研究室：竹市 力 助教授、西宮伸幸 助教授、
松本明彦 助手

[分析計測センター]

- 状態分析化学研究室：加藤正直 助教授、服部敏明 助手

[技 官] 太田初一、斉藤年秀

[事務官] 中村健太郎

修了生の皆さんから世の中の動きを報告していただければ幸いです。

末筆となりましたが、皆さんが今後も確かな足どりで人生の道を歩まれますよう、お祈り申し上げます。

建設工学系

角 徹 三

卒業生・修了生の皆様、長引く不況の中、厳しい職場で奮闘されていることと拝察します。

この1年間かなりの人事移動がありました。まず、平成10年10月には吉田友彦、河野進の両助手が転出、入れ替わりに、同年10月に谷武先生(計画系助手)、平成11年4月に中治弘行先生(構造系助手)を迎えました。長年建設系の系長として御尽力戴いた栗林栄一先生が平成11年3月をもって停年退官されました。後任として河邑眞先生が昇進されました。また、同年4月高島英幸助手が転出、入れ替わりに中澤祥二先生(構造系助手)を迎えました。長年系事務室を切り盛りしていただいた本間佳代子技官が転出、新しく小柳津武事務官を迎えました。

このような人の移り変わりの激しさは本系がアクティブであることの証左で、真に結構ではあるのですが、リストラの波は大学といえども例外ではなく、転出後の補充に悪戦苦闘を強いられるのが現状です。卒業生・修了生諸君の力を借りなければならない局面はまだまだ続きそうです。一層のご鞭撻をお願いする次第です。

[構造大講座]

- 教 授：加藤史郎、角 徹三、河邑 眞
助 授：山田聖志、田中仁史
助 手：中澤祥二、中治弘行、蔭 健群
技 官：金田隆文

[環境大講座]

- 教 授：本間 宏、中村俊六、北尾高嶺
助 授：松本 博、青木伸一、西村和之
助 手：小出水規行
教務職員：山本一伸
技 官：片岡三枝子

[計画大講座]

- 教 授：三宅 醇、渡邊昭彦、廣島康裕
助 授：大貝 彰、加藤彰一、泉田英雄
助 手：野澤隆秀、谷 武
教務職員：山中正樹

[事 務] 小柳津武

[学生現員] (5/1 現在)

- 学 部：1年次7名、2年次22名、3年次65名
4年次65名
修 士：1年次48名、2年次53名
博 士：1年次2名、2年次3名、3年次3名

知識情報工学系

山本眞司

知識情報工学系の近況をご紹介します。

各大講座の教官は右に示すとおりですが、1年前と比べますと機能情報大講座が見違えるように充実致しました。すなわち、新田恒雄教授、堀川順生教授、金澤靖講師、小林聡助手、があらたに着任され、また杉浦彰彦氏が助教に昇任されました。なお、杉田陽一助教授が転出されました。

一方、情報科学大講座では、吉岡貴芳助手が転出され、渡邊祐司助手が着任されました。また分子情報大講座では、スラニナ・ゼニック教授が転出され、後藤仁志助教授が着任されました。事務官は熊谷政希氏から丸木仁史氏に交代しております。

と云うことで、知識情報工学系の教官組織は過去10年間で現在が最も充実していると申し上げて良いでしょう。これからの10年の教育・研究活動が過去の10年以上に充実したものとすべく職員一同がんばって参りたいと思います。

就職関係はご多分に漏れずかなり厳しい状況にありますが、それでも情報関連学系であるだけに比較的恵まれている方だと言えましょう。今後、就職や実務訓練など卒業生、修了生の皆様のご協力をお願いすることも多々あるかと思っておりますので、よろしくお願い致します。また逆に悩み事などがある場合に気楽に私ども

[情報科学大講座]

教授：磯田定宏、増山 繁、石田好輝
 助教授：河合和久、赤松 隆
 講師：市川周一
 助手：吉田 敦、渡邊裕司

[分子情報工学大講座]

教授：大澤映二、阿部英次
 助教授：高橋由雅、船津公人、後藤仁志
 助手：栗田典之、小澤理樹、加藤博明

[機能情報工学大講座]

教授：山本眞司、新田恒雄、堀川順生
 助教授：杉浦彰彦
 講師：金澤 靖
 助手：小林 聡、滝沢穂高

[事務室]

教務係(技官)：小西和孝
 学系係：丸木仁史

[学生現員] (平成11年4月1日現在)

学部：1年次13名、2年次18名
 3年次53名、4年次60名
 修士：1年次44名、2年次43名

教官の所へ相談にお越し下さい。そうした相互の密接な交流・連繫を保っていくことが本系の発展と皆様方の躍進の原動力になると思っておりますので、よろしく願い致します。

エコロジー工学系

後藤尚弘

寒冷の候、エコロジー工学系の卒業生、修了生の皆様にはますますご健勝のことと存じます。さて、当系の近況についてお知らせします。

着任：平成11年度5月1日付けで、岡村聖先生が本学大学院博士後期課程を修了され生態環境工学大講座に教務職員として着任されました。さらに、10月1日付けで、松為宏幸先生が東京大学より同じく生態環境工学大講座に教授として着任されました。

昇格：平石明先生が4月1日付けで教授に昇格されました。

転出：袁建偉先生が4月1日付けでBritish Columbia大学(カナダ)に、松尾隆嗣先生が10月1日付けで東京都立大学に移られました。

本年度から笠倉忠夫教授が系長を、北田教授が系長補佐を務ていられます。また、事務官の石黒真樹さんが岐阜大学に移られ、森田晃央さんが学系係から来られました。平成11年度中には新しい建物(大学院棟)も完成する予定です。スタッフも施設も益々充実したものとなり、教職員一同、教育・研究における責任を果たすべく日々邁進しております。本系の情報は以下のアドレスでホームページ上にて公開しております。是非ご覧ください。

<http://eco.tut.ac.jp/>

最後に、教職員一同、卒業生・修了生の皆様のご健康とご発展をお祈りしております。

[生態基礎工学大講座]

生物機能小講座

教授：鈴木滋郎、平石 明
 助手：松澤有希子

生物情報小講座

助教授：S. S. Siddiqui、桂 進司

生物制御小講座

教授：菊地 洋
 助手：田中照通、安田八郎

[生物応用工学大講座]

細胞応用小講座

教授：水野 彰
 助教授：辻 秀人
 助手：高島和則

生物機能応用小講座

教授：藤江幸一
 助教授：胡 洪宮
 助手：後藤尚弘

生物複合応用小講座

教授：笠倉忠夫
 助教授：田中三郎
 助手：野田玲治

[生態環境工学大講座]

生物資源小講座

教授：松為宏幸
 助教授：成瀬一郎

生態保全小講座

教授：北田敏廣
 助教授：木曾祥秋
 助手：倉田学児
 教務職員：岡村 聖

生態エネルギーシステム小講座

助教授：金 熙濬
 留学生専門教育担当教官

講師：Del. Carpio C. A.

[技 官]

坂井悦子

[事 務]

森田晃央、上村洋子

人文・社会工学系

相京 邦 宏

人文・社会工学系及び語学センター、体育・保健センターのスタッフは以下の通りです。

体・保センターの寺澤猛先生と語学センターの野村武先生がこの3月に定年退官されました。寺澤先生の後任には柳原大先生(専門は神経生理学・運動生理学)が4月1日付けで着任されました。

又産学協同という形で古川先生(元富士通勤務)が未来技術流動研究センターの教授として着任され、系のメンバーに加わっております。事務は山崎雅子さんが会計課の用度係に異動され、代わって小柳陽子さんが新たな仲間になりました。

定年退官された御二人には名誉教授の称号が授与されました。本学の、又系の発展のために十年以上の長きにわたり様々な要職を担ってこられた御二人ですが、現在は悠々自適の毎日を過ごしておられるそうです。

[人文・社会工学系]

教 授：浜島昭二(系長)、藤原孝男、山内啓介、山口 誠、宮田 譲

助 教 授：相京邦宏、尾崎一志、加藤三保子、西村政人、平松登志樹

講 師：村松由起子

助 手：渋澤博幸

外国人教師：リチャード・マーシャル

事務職員：小柳陽子

[語学センター]

教 授：伊藤光彦、小杉隆芳、山本 淳(センター長)

助 教 授：河合弓子

助 手：結城正美

教務職員：鈴木聖子

[体育・保健センター]

教 授：安田好文(センター長)

助 教 授：大貝 彰、柳原 大

[未来技術流動研究センター]

教 授：古川泰男

研究協力課から

「最新の研究情報」の発行について

「最新の研究情報」最新号(平成11年5月現在)を発行しました。

これは、本学教官の研究動向を迅速に広く公開し、共同研究、技術相談など産学交流に役立てていただくため、1人1ページ、各教官が自ら、研究テーマごとに研究の概要をわかりやすく紹介した冊子です。詳細な研究分野の目次、キーワード索引を設けてあります。

ご希望の方は、340円切手を貼付し、送付先を明記した返信用封筒(角2型(33cm×24cm)封筒)を同封の上、研究協力課にご請求ください。

441-8580

豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1

豊橋技術科学大学

教務部研究協力課研究事業係

Tel. 0532-44-6574

公開講座について

本学では公開講座を開講しています。詳細については、研究協力課にご照会ください。

ホームページも開設しています。

http://www.tut.ac.jp/japanese/KENKYO/5_la.html

- * 講義主体の夜間公開講座
ミニ大学院アフターファイブコース(1)・(2)
- * 実験・実習主体の公開講座
技術者養成研修
- * 企業内で受講可能な衛星講座
衛星通信公開講座

平成10年度

退官教官より



建設工学系 教授

栗林 栄一

在職17年を顧みて

研究室で、教室で、学内の諸行事で、17年間の在職中に共にキャンパスの雰囲気共有してきた在学生諸君の数は、おおよそ延べ34,000人・年になるのではないかと推算しています。実員に換算すると約8,000人になるでしょうか。

これ程、多数の方々との精神的なつながりを持てたことは、この上もない幸せであったと思っています。時には駅頭で、訪ねた企業や役所の事務所で、会議の終わった直後などに声を掛けて下さる卒業生もおられます。活躍の様子を垣間見てまことに嬉ばしいものです。

学問の領域や分野が異なっても、また出身地や出身国が異なってもキャンパスで同じ空気を呼吸したと云う経験がこのような再会を容易にするのではないのでしょうか。そこには社会活動における利害とは無縁な空気が流れていることは云うまでもありません。

濃淡入り交じってはいますが、このような人間共存の透明は関係が8,000人にも及ぶと云うことは一般社会では全く期待出来ない事柄ではないでしょうか。しかし反面、アカデミズムやスピリチャリズムに埋没して社会の現実を目をつぶってしまうことは避け

なければならぬと思います。両相俟ってこそ社会に進歩と発展がもたらされるものと思っています。

また、多様な分野や異なる経験をもった多くの同僚と席を共に温めることが出来たことは幸いでありました。教育の達人を自認する生き字引のような方、研究一筋で夜道でも足元の暗さに無頓着な方、開発した機器のセールスマンを自認して臆するところのない方、電子機器を自在に運用出来る方、このような方々から示唆や影響を深く受けたことは事実でありました。

さらにもう一つの幸いはコンピューターに慣れ親しんだことが挙げられます。国の研究機関に在職していた1960年頃、はじめて電子計算機（当時はこのように称していた）に接しました。森口繁一先生が提唱されたSIPコードと云う日本で初めての人間語に近い言語を用いて演算をしていました。超越関数などを展開近似させる無限時間の演算に陥りかねない有り様でした。したがって熟知の監視員の査察を受けてからキーパンチしたプログラムのカードを入力装置に装填したものです。しかし今日ではノート型パソコンで、当時の数百万倍にも当たる計算が素早く行えるようになったことはまことに有り難いことでもあります。

SIPコードで始まった計算機の自力による運用は、たちまちFORTRN、FORTRAN IIへと移り変わり、運用はもっぱら計算専門の企業に委ねることになり、自分の手から離れていってしまいました。自然災害、とりわけ地震の災害の研究に取り組んできた筆者にとっては膨大な資料の分析にはコンピューターは欠かせない有力のな手段の一つでありました。1982年本学に籍を移して、ようやく同僚や学生諸君の力を借りながら再び運用出来るようになったことは大いなる喜びでありました。

思いつくままに本稿を草しましたが、最後に在学生の皆様、卒業生の皆様、今後も何時でも何処でも気軽に声を掛けて下さることを願っております。豊橋技術科学大学ならびに皆様の一層の発展と健闘を大いに期待しております。

この原稿は、「雲雀ヶ丘だより」第63号（H11.3.19発行）に掲載されたものを、ご本人及び学生課の了承を得て転載したものである。



語学センター 教授
野村 武

一英語教師の40年

昭和34年、初めて勤めたのが愛知県立明和高校の定時制。木造校舎に雪が舞う夜、生徒は手袋に鉛筆を持ち、冷房のない真夏、教師は一時間授業をすれば下着がぐっしょり濡れた。入学者の3割以上が卒業時まで中途退学を余儀なくされた苦しい経済・学習環境にあって8割の生徒が進学をめざした。伊勢湾台風のあと、一面池のような南区の被災地をボートで生徒の安否を尋ねた時、「先生、生きています」と屋根の上から元気に叫んだA君。今や中堅弁護士として活躍している英語の補習クラスにいたB君。「君、この頃英語がよくできるようになったね」との一言に励まされたと言う大学教授をしているC君。努力及ばず転校し、2度目の修学旅行先から便りをくれたDさん。37年に犬山高校へ。未熟な青年教師に、貴重で忘れ難い経験を積み重ねてくれた高校での非常勤を含めた6年間であった。

昭和38年、創立2年目の鈴鹿高専へ。入試の採点に3日間滞在した早春の光る海を望む今は無き鼓ヶ浦の

松籟が懐かしい。高専の教師は忙しい。教育・研究はもとより、クラブ活動に担任・寮監としての生活指導。しかし高専は私の性に合っていた。英語の授業も厳しかった。最初の頃は2年間で高校の検定教科書3巻を読了し、3、4年では大学生にも負けないテキストを読み、学生もまた、それを誇りとした。卒業の季節になると卒論のアブストラクトの英文の添削を求める学生が列を成した。学生は仮の寮と学校との田舎道を課せられた英文を暗唱しながら往復したという。英語検定では2年で2級に合格する学生がいた。やがて英語教育界にコミュニケーションを重視する風潮が強くなり、英会話担当の外国人の非常勤講師が採用され始めた。伊勢湾での水泳訓練、クラブ活動、合宿、寮祭、研修旅行、高専体育大会。同僚や学生と苦楽を共にした思い出が尽きない26年ではあった。

そして平成元年、縁あって高専で教えた学生が学ぶ本学へ。真剣なまなざしで板書を見つめ、私の授業を熱心に聴いてくれた学生と共に学んだ充実した10年であった。

今日に諸君が有るのは、諸君自身の努力はいわづもがな、これまでに育てられた御両親、学校の先生・事務の方々、そして国家・社会のおかげである。どうか自分を大切に、未来に目標を定めて歩んで欲しい。諸君の抱く潜在能力が見事に開花、豊かな実を結ぶことを信じている。

高専での私の最後の教え子が立派な研究者として昨春、本学を巣立った。大学の発展と学生の幸せを念じて本学をあとにしよう。

この原稿は、「雲雀ヶ丘だより」第63号（H11.3.19発行）に掲載されたものを、ご本人及び学生課の了承を得て転載したものである。



体育・保健センター 教授

寺澤 猛

「変わる」と「変える」とは 大違い

この3月末で待ちに待った停年を迎える。1979（昭和54）年から20年間もお世話になった本学は、1977（昭和52）年に設立が閣議決定され、旧市庁舎の一部を借りて事務局がスタートし、大学の基本的な問題を検討するための委員会が組織された。私が本学に関わるようになったのは、その基本問題検討委員会の委員として月1・2回ほどその会合に出席したところから始まった。古いことは忘れてしまっただが、最初の入学試験は河合塾（豊橋校）を借りておこなったことを思い出す。翌1978（昭和53）年から1、3年次の1期生が入学、私も毎週1回非常勤講師としてスタートし、2年目から専任教官として着任した。以来今日まで教員生活42年のおよそ半分もの期間を過ごさせていただいた。

教官の間でそのころの学生と最近の学生のどこが違うか話題になることがある。私の印象では、開学当初の学生諸君は自分を「変えよう」と努力していたのに対し、最近の学生諸君の多くは進んで努力しなくとも多分「変わる」だろうと思っているように感じる。学生時代を積極的に学習するか消極的か、

能動的か受動的かで結果は大きく異なるということ
を頭でわかっている、実行するかしないかで全く
違ってしまふ。それもわかっているのにしないように
思う。出来ないのではないと信じたいが。その原因
は行き着くところ目的意識が希薄なのではないだろ
うか。

人間のからだに「変わる」部分と「変わらない」
部分とがある。また、「変えられるかもしれない」
部分もある。人間の内部諸器官の生物的法則は変え
にくい、人体の筋肉や神経系などは変えやすい特
性を持つ。一流の競技者達はこの「変わるかもしれ
ない」部分の開発に努力している。並の努力では一
流にはなれないからだ。しかし、あるがままに社会
的生存を果たしていれば、「変わる」部分も「変わ
らない」どころか年とともに低下は避けられない。

学生生活があるがままに過ごせば、知的資質の向
上が見られないのは当然である。「変えよう」とす
る意欲や目的意識の欠如が「変わる」部分すら「変
えよう」としないのである。知識の吸収力や理解力
向上の至適年齢は若いほど高いが、目的意識を高め
て意欲的に取り組みさえすれば、たとえ至適年齢を
超えてしまっても努力しただけの効果は必ず得られ
るものだ。気がついたときに努力すればいい。長い
一生のスパンで考えればいいことだ。積極的に知識
を吸収するのはもちろんのこと、様々な趣味ももっ
て豊かな人間性の確立に努力してほしい。常にエネ
ルギッシュに、失敗を恐れずにチャレンジする生活
態度こそ若さではないのか。どうか分別ぶった小型
紳士にだけはならないで不器用でもいい一生懸命に
生きることだ。活躍を期待する。

この原稿は、「雲雀ヶ丘だより」第63号（H11.3.19発行）に掲載されたものを、ご本人及び学生課の了承を得て転載したものである。

現在豊橋技科大図書館事情

三宅 恒子

少し前に同窓会報に書いたなあ、とっていたら、何と10年前でした。(オオッ! 時の流れが速すぎるう)

技科大の図書館を思い出していただけますか? 初期の卒業生の方は、本を借りるのに名前や書名を書いたなあ、と思い出されるでしょうか? 図書を間違っ持ち出そうとするとピッピッと鳴っていやだったなあ、とか。秋の夕暮れの図書館はよかったなあ、なんて思い出される方もいらっしゃるでしょう。「可愛い娘がきたので見に行ったなあ」って? そういうこともありましたね。

ここ2~3年でどこの図書館も大きく変わりました。技科大の図書館も例に漏れずです。変貌の原因の大きな要素はやはり電子化とインターネットの普及です。いちいち図書館に行かなくても研究室から居ながらにして何でもできる環境になってきています。印刷術発明のグーテンベルグ以後最大の環境の変化といえる時代かもしれません。

さて、今の技科大の図書館のウリは、平成10年5月からの24時間開館(実際には、ちょっと整理のために退館していく時間がありますが)でしょうか? 平日—8時、土曜日—5時に図書館の正面のドアが開くと、利用者は自習室のドアの横にある電気錠に、学生証を読み込ませ、自分のパスワードを入力して

図書館に入ることができます。借りたい図書があれば、自動貸出返却機を自分で操作して本を借りることができます(そのかわり、参考図書も雑誌も一切持ち出し禁止になりました)。

「夜まで勉強しなくても」とか 「なんで朝の4時にレポートを書く?」

「そんなことするモンで授業中に眠るんやないか」「そんなことしたら、大変ですよ、何が起ころとも知りませんよ」と先生。実際、アメリカなどではオソロシーイことがあるとかないとか。

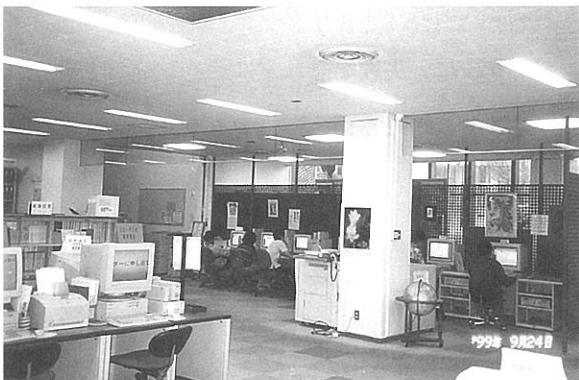
でも、実際に自分が必要とするときに図書館を利用できる、というのはいいことにちがいません。全国の大学図書館で24時間開館をしているのは、15大学くらいあると聞いています。でも、1年生から利用できるのは、本学だけでしょう。

「どうせインターネットをしにいくのでしょ?」

「電気が煌々とついていて全くもったいない」という人もいます。

私も、他大学のように大学院以上の研究者に限った方がよかったのかな? と乱雑になっている机をみたり、パソコンが収拾不可能なほど奥深くいじられているのをみると、ちょっと悲しい思いをしますが、1~3年生の研究室に所属していない学生達の居場所を作ったという点では、よかったのかな? と思います。因みに昨年6月のまだもの珍しい試験期の土日の入館者は、なんと1,000人を超えたそうです。現在の一晚の利用者は、約100人です。(ここでひとことお詫びですが、この24時間の利用は、卒業生のかたにまでは拡大されていません。すみません)

そのほか図書館内には、30台のパソコンがおり、ノートパソコンの他はいつでも自由に使えます。情報コンセントも館内に付けられているのでパソコンの持ち込みも自由です。パソコンコーナーは人気があり、いつでも沢山の人が利用しています。



1F 閲覧室

(でも図書館員より技術に秀でた学生が沢山いるので、パソコンはすぐに障害が出たのでやむなくかなりの制限をしています。反対にヘルプ機能を出してくれる学生もいて助かります)。

また、電子的資料も大いに変貌があり、科学技術文献速報はCD-ROM (BUNSOKU) になり、一番人気でいつでも誰かが利用しています。ケミカルアブストラクトも以前は、シコシコとページを繰って使ってもらいましたが、1987年から13年分がCD-ROMで利用できます。また、外国雑誌の目次を確認できるスエッツスキャン、300誌を越える電子ジャーナルもホームページからアクセスできるようになりました。

ただ、一方から見れば、図書館にきて図書館員と話をしながら、というのも楽しみのひとつだった方も多いのでは、と思うのですが、24時間や自動貸出返却機によって、カウンター越しのおしゃべりが本当に少なくなってしまったのは事実です。これは、図書館のコンビニ化といってもよく、いささか残念ですね。図書館にいてよくおしゃべりしたなあ、という方はどなたでしたっけ？ あのころが楽しかったと思うのは私だけかな？

考えてみれば、私の人生の中で一番大切なものは私をとりまく友人関係だといえます。大学の中では、テニスや、コーラス、スクエアダンス(今も図書館の中でやっています)の仲間、図書館の夜間アルバイトの学生達、そしてカウンター越しにエールを送り、返してくれた先生や学生達との関係です。多くの人たちとはこれからも折に触れつきあいが続くことでしょう。カウンター越しに話をし、この人は何を要求しているのかな、何をしてあげられるかな？逆に何が頼めるかな、と考え、お互いに元気の出るものはできるだけやりたい、というのが私の考えです。利用者というだけに留まらず偶然にしろ出会えた人間同志として拡がっていきたい、と思うのです。要するにカウンター越しの関係は、世界に拡がると思うのです(実際に毎日図書館に来て挨拶してくれる留学生達は世界中からきていますね)。需要は供給する側が作る、図書館が大学の心臓ということであれば、絶えず血液を送り込まなければ生き生きした図書館はできない、ということでしょう。最新の情

報を提供する機能としての図書館であると同時に、人間的な暖かいふれ合いの場をも共有する図書館でありたい、と思うのです。情報は発信しなければ新たな情報は得られませんし、情報が多ければより高次の情報が集まるというのも事実のようです。図書館は、サービス機関である、ということを入れて、利用者(人間)とのいい関係を再生産していきたいものです。図書館にいる図書館員がそれを放棄したら図書館員は勤まらないとおもうのですが。

大学の法人化とも相まって図書館は、ますます変わって行くことでしょう。でも、卒業生のみなさん、いつでもきてください。入館するにはカードが要りますが、「ちょっと使いたい」とか「ちょっと見せて」と遠慮なくいってください。臨時のカードを借りればいつでも入れます。

「お待ちしておりますよ」と言いたいのですが、私は、2000年3月には図書館に「サヨウナラ」することになります。でも、長年携わった京大経済学部図書館、東大経済学部図書館と豊橋技術科学大学附属図書館のことは利用者のみなさんのことも含めて忘れないでしょう。沢山したいことがありましたが、思うようにはいかず、が実状でした。

お暇がありましたら、図書館のホームページもごらんになってください。

<http://www.lib.tut.ac.jp> にアクセスしてみてください。

また、もうすこし暇がありましたら、私にメールをください。(miyake@pop02.odn.ne.jp)

皆様が心豊かに、ファイトをもって生きていかれますよう願っています。



同僚との旅行中の一コマ(著者は右端)

研究室だより

小沼研究室の近況

機械システム工学専攻修士1年

木ノ下 雄 介



修了生・卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いに活躍のことと存じます。

さて、小沼研究室の近況をご報告致します。現在の本研究室の構成は、小沼義昭教授を中心に、野田進助教授、山本和弘助手、森川正治技官の4名のスタッフと、修士2年8名、修士1年5名、学部7名の計20名の学生で、総勢24名であります。

現在、本研究室における研究テーマを紹介しますと、「非予混合火炎の予混合化に関する実験的検討」「乱流火炎に対する高温空気予熱の影響」「噴流拡散火炎の直接数値シミュレーション」「乱流噴流拡散火炎における基部構造の解明」「対向流拡散火炎の火炎構造に関する数値解析」「強乱流中に形成される火炎構造の検討」「廃棄物の焼却処理に関する基礎的研究」となっています。このように本研究室では多彩なテーマを各指導教官のもとで取り組んでいます。学生

が多いせいか、盛りだくさんですが、どれも興味深いテーマばかりです。実験を行う学生は、装置作りのために実習工場で汗を流し、計算を行う学生は、昼夜を問わずワークステーションとにらめっこ、といった感じです。

また週に2回行っているゼミは、各自の研究経過を報告するミーティングと輪講、そして各自のテーマに関連する内容の論文紹介です。ミーティングは、その時までには得られた結果を示すだけでなく、研究を進める上で生じる問題点なども挙げられ、それらについて、解決策や今後の方針など、教官と学生が一体となり、活発な議論が繰り広げられております。輪講では、英語で書かれた燃焼工学の本を、1年あるいは2年かけてじっくりと勉強します。論文紹介は、自分たちの研究テーマに関連する論文を訳して、紹介します。ここで紹介される論文は、常に新しいものをというのが原則になっており、最新の研究動向を知る上で貴重な時間になっています。

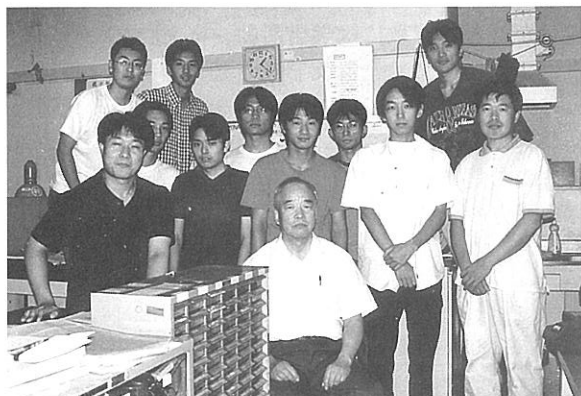
毎年、本研究室で独自に行っている8月の中間報告会は、その年の前半の総括を行う場であり、この時期は研究室中が非常にあわただしくなります。これが終わると、恒例となった研究室旅行が催され、今年度は白馬に行きました(写真)。

最後になりましたが、豊橋へ来られた時には、どうぞお気軽に我々の研究室へお立ちより下さい。諸先輩方のご来校を、研究室一同、心よりお待ちしております。

レーザー研究室の近況

電子・情報工学専攻博士3年

劉 正 新



卒業生、修了生の皆様、お元気でしょうか。皆様はそれぞれの職場でご活躍されていることと存じます。

現在のレーザー研究室は英先生はじめ、大越先生の指導で学生は額に汗して研究に励んでおります。一方、諸先輩方ご存じの前田技官は今年の四月から図書館へ転出されました。学生の構成は、博士1名、修士2年4名、修士1年3名、学部4年2名の計10名です。

研究室には昨年度から最新型のフェムト秒レーザーが導入されました。現在、レーザーアブレーションを中心として、各種な薄膜の作製に関する研究を

行っております。研究テーマを大別しますと、

- (1) フェムト秒レーザーを利用したダイヤモンド状炭素薄膜、太陽電池透明電極薄膜の作製
- (2) エキシマレーザー、YAGレーザーを利用した鉄シリサイド薄膜の作製及びその光電効果応用に関する研究

となっております。フェムト秒レーザーと鉄シリサイド薄膜の研究は「日刊工業新聞」にも報道されました。

研究室では、朝早くから夜遅くまで一生懸命研究を行っております。学生は土曜日ゼミ、論文、学会など追われる日々を楽しみながら、着々と研究結果を出し続けております。研究室には明るい雰囲気、新歓、追いコンなども、先生共々楽しくやっております。レーザー研は今年の3系ソフトボール大会で準優勝を果たしました。

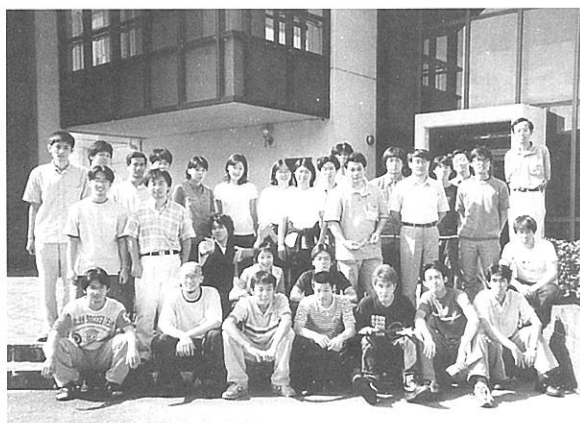
諸先輩の皆様、当時に比べかなり様変わりしたと思います。お暇な時に研究室に足を運んでみませんか。ご来校を心よりお待ちしております。尚、我々の研究室のホームページを開設しておりますので、お時間があればこちらをご覧ください。

<http://www.laser.eee.tut.ac.jp/>

生化学研究室の近況

機能材料工学専攻博士1年

藪 中 厚 生



当研究室は平成5年に鈴木慈郎教授がエコロジー工学系に移られて新体制となりました。現在はその後を引き継いだ青木克之教授が構造生物学の視点から生体物質のX線結晶構造解析を行い、さらに平成7年に理化学研究所から着任された吉田祥子講師が小脳の分化に注目した発生生物学に関する研究に取り組んでおります。また平成9年には東京大学から似内靖助手が着任され、蛋白質の結晶構造解析を行っています。ご覧の様に以前に増して当研究室は生物色が濃くなり物質工学で異彩を放っています。また外国人研究者として、7月より博士研究員の曹忠 (Zhong Cao) さんが加わり、研究生の胡寧海 (Ning-

Hai Hu)さん、博士2年のSalamさんと研究室内で英語が飛び交うのも珍しくなくなっています。この他に博士1年が1名、修士2年が9名も居り研究室の平均年齢は高く、他に修士1年が7名、学部4年が6名と研究室は総勢29名の大所帯です。

研究に関する最近のトピックスをお話しいたしますと、青木グループでは核酸を特異的に認識する金属錯体とレゾルシノール等を用いた超分子化学に注目して研究しています。吉田グループでは小脳を構成する各種細胞間の情報伝達機構から小脳分化の謎を解明する研究に加え、最近では心筋細胞の動的特性を探る研究にも取り組み、幅広く研究活動を行っています。また似内グループではトランスケターゼ等の酵素を対象に実験していますが、当大学では十分な解析が出来ないため、放射光を使用できる実

験施設へ度々出張している次第です。

研究室の1年は新歓、ソフトボール大会にはじまり、夏には恒例の研究室旅行があります。今年は富士急ハイランドにて絶叫三昧、しかも近年稀に見る良い天候に恵まれました。実はここ数年の研究室旅行は悪天候に見舞われており、雨男の存在について研究室内で話題になっていましたが、今回は欠席者も多くははっきりとした解答は得られませんでした。旅行が終われば秋には学会活動、卒業論文の追い込み、年が明けて修士論文審査、追いコンと1年はあっというまに過ぎていきます。また詳しい研究情報や研究室の近況についてはWWWで公開をしておりますので是非一度ご覧下さい。最後になりましたが、諸先輩方の今後更なるご活躍をお祈りしております。

URL(<http://rodent.mups.tut.ac.jp>)

石田研究室の紹介

電子・情報工学専攻博士1年

岡 本 剛



卒業生・修了生のみなさま、いかがお過ごしでしょうか。このたびは、知識情報工学系の石田研究室の近況についてご報告したいと思います。知識情報工学系は昨年から今年にかけて多くの先生方が本学を離れられ、新しい先生方が着任されました。石田研究室は新しく着任された石田好輝教授のもとで誕生したばかりの研究室です。

現在の研究室の構成は、奈良先端大から着任された石田好輝教授、名古屋大から着任された渡邊裕司助手の教官2名、博士課程1名、修士課程2名、学部生5名の学生8名、合計10名です。学部生の受け入れは今年が初めてだったわけですが、希望した学生は許容最大人数の5人という大変人気のある研究室となりました。他学科の研究室と比べて少数であるにもかかわらず、週1回の研究会のディスカッションでは質問や意見が絶えない活気のある研究室であ

ります。

さて、石田研究室では「複雑系、免疫系、エージェントシステム、ネットワークセキュリティ、推論・記憶」をキーワードにして、生物の情報処理に基づいた知能情報処理へのシステム科学的アプローチについて研究しております。免疫系における自己非自己識別、異物認識除去や体細胞変異による超多様性生成などを模擬した情報モデルを開発し、それをシステム診断、外乱除去、コンピュータウイルス防衛システム、コンピュータ侵入検出などに応用する研究をしています。また生物の遺伝子型への情報圧縮、表現型への情報展開など、広く情報システムとしての生物を研究し、それを新しい情報処理に応用していく研究をおこなっています。

今年の夏休みには、「複雑系のシミュレーション」というテーマで、高等専門学校情報処理教育担当者上級講習会を担当させていただくことになりました。講習会中、学生達はシミュレーションツールMathematicaの勉強だけでなく、高専の先生方との交流ができ、非常に有意義な経験をする事ができました。

最後になりましたが、本研究室でもホームページを開設しております。新しい活気ある石田研究室の最新の情報をお届けすることができますので、お時間があれば下記のURLをご覧ください。

<http://www.sys.tutkie.tut.ac.jp/>

第48回東海地区国立大学体育大会成績一覧表

日 時：平成11年6月26日～27日 当番校：三重大学
平成11年7月3日～4日

項 目	順 位		優 勝	準優勝	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	備 考
	男	女									
1 陸上競技	男		岐大 8	三重大 6	名大 5	静大 4	愛教大 3	名工大 2	豊技大 1		
	女		愛教大 5	静大 4	三重大 3	名大 2	岐大 1				
2 水 泳	男		名大 10	三重大 8	岐大 6	愛教大 5	名工大 4	浜松医科 3	静大 2	豊技大 1	
	女		岐大 10	愛教大 8	浜松医科 6	名大 5	三重大 4	名工大 3	静大 2	豊技大 0	
3 硬式野球											雨天中止
4 準硬式野球											雨天中止
5 テニ ス	男		浜松医科 10	名工大 8	名大 6	静大 5	豊技大・岐大・三重大・愛教大 各2.5				
	女		浜松医科 10	愛教大 8	名大 6	三重大 5	豊技大・名工大・岐大・静大 各2.5				
6 ソフトテニス	男										雨天中止
	女										雨天中止
7 バスケットボール	男		三重大 10	岐大 8	名大 6	豊技大 5	静大 4	愛教大 3	浜松医科 2	名工大 1	
	女		静大 6	愛教大 5	岐大 4	三重大 3	名大 2	浜松医科 1			
8 バレーボール	男		愛教大 10	名大 8	岐大 6	三重大 5	静大 4	浜松医科 3	名工大 2	豊技大 1	
	女		愛教大 6	岐大 5	名大 4	静大 3	三重大 2	浜松医科 1			
9 卓 球	男		名大 8	名工大 6	静大 5	三重大 4	愛教大 3	岐大 2	豊技大 1		
	女		愛教大 4	三重大 3	静大 2	岐大 1					
10 バドミントン	男		岐大 10	静大 8	豊技大 6	名大 5	名工大 4	三重大 3	浜松医科 2	愛教大 1	
	女		名大 10	岐大 8	静大 6	愛教大 5	浜松医科 4	名工大 3	豊技大 2	三重大 1	
11 サ ッ カ ー			三重大 10	愛教大 8	名大 6	浜松医科 5	静大 4	名工大 3	豊技大 2	岐大 1	
12 ハンドボール	男		愛教大 8	名大 6	名工大 5	三重大 4	岐大 3	浜松医科 2	豊技大 0		
	女										
13 柔 道			岐大 5	三重大 4	名工大 3	豊技大 2	愛教大 1				
14 剣 道	男		岐大 10	静大 8	名大 6	名工大 5	浜松医大・愛教大・豊技大・三重大 各2.5				
	女		静大 8	名大 6	岐大 5	愛教大 4	浜松医大・名工大・三重大 各2				
15 体 操	男		岐大 5	静大 4	名大 3	名工大 2	三重大 1				
	女		岐大 4	静大 3	愛教大 2	名大 1					
16 馬 術			名大 6	三重大 5	静大 4	愛教大 3	岐大 2	名工大 1			
17 空 手 道	男		名大 8	三重大 6	浜松医科 5	名工大 5	豊技大 3	静大 2	岐大 1		
	女		浜松医科 4	名大 3	三重大 2	岐大 0					
18 弓 道	男		静大 8	三重大 6	岐大・名工大 各4.5	浜松医科・名大・愛教大 各2					
	女		三重大 8	愛教大 6	名大 5	岐大 4	名工大 3	静大 2	浜松医科 1		
19 アーチェリー	男		岐大 4	愛教大 3	三重大 2	静大 1					
	女		岐大 4	三重大 3	愛教大 2	静大 0					
20 少林寺拳法			名大 10	三重大 8	愛教大 6	静大 5	岐大 4	名工大 3	豊技大 2	浜松医科 0	
総合順位	男		名大	三重大	岐大	静大	愛教大	名工大	浜松医科	豊技大	
	女		愛教大	岐大	名大	静大	三重大	浜松医科	名工大	豊技大	

(備考) 表中の大学名の右数字は得点を示す。

平成10年度 卒業・修了者就職先一覧

平成11年5月1日現在

No.	企業名等	工 学部	修 士	博 士	合 計
一般企業					
1	ISC-NSK MICRO PRECISION CO. LTD	I			I
2	(株)アイシン・エイ・ダブリュ	1			1
3	(株)アイシン・エイ・ダブリュ精密	2			2
4	アイシン精機(株)	2			2
5	アイセロ化学(株)	1			1
6	アオイ電子(株)	1			1
7	旭化成工業(株)	I	I	II	
8	旭化成情報システム(株)	2			2
9	旭硝子(株)	2			2
10	(株)アステック	1			1
11	アスモ(株)	1			1
12	(株)アテック	1			1
13	アマノ(株)	1			1
14	(株)新井組	1			1
15	アラコ(株)	1			1
16	(株)アルゴテクノス21	1			1
17	(株)アルトナー	1			1
18	安藤建設(株)	1			1
19	アンリツ(株)	1			1
20	(株)イケックス工業	1			1
21	石川島播磨重工業(株)	1			1
22	和泉電気(株)	①			①
23	(株)出雲村田製作所	2			2
24	(株)一条工務店①	①			①
25	(株)一条工務店宮城	1			1
26	(株)伊藤建築設計事務所	1			1
27	伊藤忠テクノサイエンス(株)	2			2
28	(株)I N A X	1			1
29	(株)イノアックコーポレーション	1			1
30	上野ひまわり作業所	1			1
31	(株)イーベックス・インターナショナル①	①			①
32	(株)エス・エヌ・ケイ	1			1
33	(株)H I P	1			1
34	NECポスタルテクノレクス(株)	①			①
35	エヌエス環境(株)	①			①
36	エヌエスケー・ワーナー(株)	I			I
37	N T N (株)	1			1
38	N T Tソフトウェア(株)	1			1
39	N T T東海移動通信網(株)	1			1
40	(株)愛媛電算	1			1
41	(株)MITシステム研究所	1			1
42	尾池工業(株)	1			1
43	オークマ(株)	1			1
44	(株)岡山情報処理センター	1			1
45	オムロン(株)	①			①
46	(株)オムロンソフトウェア	1			1
47	(株)オリエンタルコンサルタンツ	1			1
48	オリンパス光学工業(株)	1			1
49	(株)角 藤①	①			①
50	川崎重工業(株)	1			1
51	関西ペイント(株)	1			1

No.	企業名等	工 学部	修 士	博 士	合 計
52	(株)技研製作所	1			1
53	(株)希望社①	①			①
54	キヤノン(株)	2			2
55	キヤノン電子(株)	1			1
56	九州住商情報システム(株)	1			1
57	京セラ(株)	①			①
58	共和レザー(株)	1			1
59	近畿通信建設(株)	1			1
60	(株)きんでん	1			1
61	(株)クオードコーポレーション	1			1
62	(株)熊谷組	1			1
63	クラリアントジャパン(株)	1			1
64	クラリオン(株)	1			1
65	KTIセミコンダクター(株)	1			1
66	(株)ケンウッド①	①			①
67	高周波熱錬(株)	1			1
68	(株)神戸製鋼所	4			4
69	光洋産業(株)	1			1
70	光洋精工(株)	1			1
71	興和(株)	1			1
72	(株)国際電気通信基礎技術研究所		I	I	
73	後藤コンクリート工業(株)	I			I
74	(株)コニカケミカル	1			1
75	(株)コベルコ科研①	①			①
76	五洋建設(株)	2			2
77	ザクソン(株)	1			1
78	三栄ハイテックス(株)	1			1
79	サンケン電気(株)	1			1
80	山正産業(株)	I			I
81	(株)C R C 総合研究所	1			1
82	J E S C O (株)	1			1
83	(株)システム計画研究所	1			1
84	(株)島津製作所	1			1
85	清水建設(株)	1			1
86	シャープ(株)	2			2
87	(株)ジャコム	1			1
88	(株)上智	1			1
89	神鋼電機(株)	1			1
90	神鋼パンテック(株)	1			1
91	新東工業(株)	1			1
92	新明和エンジニアリング	1			1
93	スズキ(株)	①	2	5	①
94	住友金属工業(株)	3			3
95	住友電気工業(株)	2			2
96	セイコーエプソン(株)	2			2
97	セイシン企業(株)	1			1
98	積水ハウス(株)	1			1
99	(株)創建環境エンジニアーズ①	①			①
100	創建建築事務所①	①			①
101	総合警備保障(株)	1			1
102	ソニー(株)	3			3
103	ソニー幸田(株)	1			1

No.	企業名等	工 学部	修 士	博 士	合 計
104	ソニー国分(株)	1			1
105	ソニー浜松(株)	1			1
106	大同特殊鋼(株)	2			2
107	大日本印刷(株)	1			1
108	大日本スクリーン製造(株)	1			1
109	ダイハツ工業(株)	1			1
110	太平洋セメント(株)	1			1
111	太陽工業(株)		1		1
112	高木産業(株)	1			1
113	(株)竹中工務店	1			1
114	竹本油脂(株)	I			I
115	立山科学グループ	1			1
116	(株)谷山建築設計事務所	1			1
117	玉野総合コンサルタント(株)	1			1
118	(株)中央住宅	1			1
119	(株)中電工	1			1
120	中部ガス(株)	1			1
121	中部住宅販売(株)	1			1
122	中部テレコミュニケーション(株)	1			1
123	中部電力(株)	1	I	I	
124	中部日本電気ソフトウェア(株)	1			1
125	(株)中部プラントサービス	1			1
126	千代田情報機器(株)	1			1
127	(株)ツガミ	1			1
128	筒中プラスチック工業(株)	1			1
129	(株)榎木チェーンイン	1			1
130	鶴 弥(株)	1			1
131	(株)テック	1			1
132	(株)デュエル	1			1
133	(株)デンソー	1	2	3	
134	(株)T O K A I	1			1
135	東海興業(株)	1			1
136	(株)東海分析化学研究所	2			2
137	(株)東海理化電機製作所	1			1
138	東京エレクトロンFE(株)	1			1
139	東京エレクトロン九州(株)	1			1
140	東京エレクトロン山梨(株)	1	I	I	
141	(株)東芝	2			2
142	東芝機械(株)	1			1
143	東芝タンガロイ(株)	1			1
144	(株)東伸	1			1
145	東電ソフトウェア(株)	1			1
146	東北バイオニア(株)	1			1
147	東北リコー(株)	1			1
148	東洋エンジニアリング(株)	1			1
149	東レ(株)	3	2	5	
150	東レエンジニアリング(株)	1			1
151	東レ・プレジジョン(株)	1			1
152	鳥取三洋電機(株)	1			1
153	トビー工業(株)	1	1	2	
154	(株)巴コーポレーション	1			1
155	豊田工機(株)	1			1

No.	企業名等	工学部	修士	博士	合計
156	(株)トヨタシステムリサーチ	1	II		II
157	(株)豊田自動織機製作所	2			2
158	(株)トヨタテクノサービス	1	1		2
159	豊橋飼料(株)	1			1
160	中日本建設コンサルタント(株)	1			1
161	名古屋製酪(株)	1			1
162	(株)新潟鐵工所	1			1
163	新潟日本電気ソフトウェア(株)	1			1
164	西松建設(株)	1			1
165	日産自動車(株)	2			2
166	日精工業(株)	1			1
167	日通工(株)	1			1
168	日東電工(株)	2			2
169	日本ガイシ(株)	I			I
170	日本軽金属(株)	1			1
171	日本シェーリング(株)	1			1
172	日本システムウェア(株)	1	1		2
173	日本上下水道設計(株)	1			1
174	日本真空技術(株)	1			1
175	日本信号(株)	1			1
176	(株)日本製鋼所		1		1
177	日本ゼオン(株)	1			1
178	日本電気(株)	4			4
179	日本電気マイコンテクノロジー(株)	①			①
180	日本電産(株)	1	1		2
181	(株)日本電子	1			1
182	日本電信電話(株)	5	1		6
183	日本電池(株)	1			1
184	日本ビクター(株)	1			1
185	日本メクトロン(株)		I		I
186	日本ユニシス(株)	1			1
187	(株)任天堂	1			1
188	パイオニア(株)	2			2
189	(株)ハイ・トマト	1			1
190	(株)八チオウ	1			1
191	(株)花田工務店	I			I
192	(株)浜名ワークス①				①
193	(株)ビー・エム・シー①				①
194	(株)ピオック	1			1
195	(株)美建	1			1
196	日立金属(株)	1			1
197	日立公共システムエンジニアリング(株)	①			①
198	(株)日立製作所	6			6
199	日立ソフトウェアエンジニアリング(株)	1	1		2
200	日立電子サービス(株)	1			1
201	日立電線(株)	1			1
202	日立マクセル(株)	1			1
203	(株)日立メディコ	1			1
204	(株)ファイブフォックス	1			1
205	富士機械製造(株)	I	2		I 2
206	(株)フジクラ	1			1
207	フジクリーン工業(株)	1			1

No.	企業名等	工学部	修士	博士	合計
208	富士写真フイルム(株)	1	1	2	
209	富士ソフトABC(株)	①		①	
210	富士通(株)	3		3	
211	(株)富士通愛知エンジニアリング	1		1	
212	富士通インターナショナルエンジニアリング(株)	I		I	
213	富士通エフ・アイ・ピー(株)	①		①	
214	富士通関西通信システム(株)	1		1	
215	(株)富士通コンピューターテクノロジー	1		1	
216	(株)富士通ゼネラル	1		1	
217	(株)富士通ソフトウェア生産技術研究所	I		I	
218	富士通デジタル・テクノロジー(株)	1		1	
219	(株)富士通鳥取システムエンジニアリング	1		1	
220	(株)富士通プログラム技研	①		①	
221	(株)富士通北陸システムズ	1		1	
222	富士フイルムソフトウェア(株)	1		1	
223	ブラザー工業(株)	1	1	2	
224	プラズマ技研工業(株)		I	I	
225	(株)ブリヂストン	1		1	
226	古河電気工業(株)	1		1	
227	(株)ベンチャーセーフネット	3		3	
228	ホシデンフィリップスディスプレイ(株)	①		①	
229	ポータル興業(株)	①		①	
230	本田技研工業(株)	1	2	3	
231	(株)マキタ	2		2	
232	(株)牧野フライス製作所	1		1	
233	松下AVCマルチメディアソフト(株)	①		①	
234	松下寿電子工業(株)	1	1	2	
235	松下システムテクノ(株)	①	1	①	
236	松下精工(株)	1		1	
237	松下通信工業(株)	①		①	
238	松下電器産業(株)	8	1	9	
239	松下電工(株)	1		1	
240	マレーシアシャープ(株)	I		I	
241	マレーシア松下電器産業(株)	I		I	
242	三浦工業(株)	1		1	
243	三河観光自動車(株)	1		1	
244	三菱アルミニウム(株)	1		1	
245	三菱化学(株)	1		1	
246	三菱自工(株)	1		1	
247	三菱重工業(株)	3		3	
248	三菱電機メカトロニクスソフトウェア(株)	1		1	
249	三菱レイヨン(株)	2		2	
250	ミネベア(株)	1		1	
251	ミノルタ(株)	3		3	
252	武蔵精密工業(株)	1		1	
253	村田機械(株)	1		1	
254	(株)メイテック	1		1	
255	(株)名鉄コンピュータサービス	1		1	
256	(株)モアソソジャパン	I	I	II	
257	矢崎総業(株)	1	2	3	
258	柳田建設(株)	1		1	
259	矢作建設工業(株)	1		1	

No.	企業名等	工学部	修士	博士	合計
260	(株)山武	1		1	
261	山之内製薬(株)	1		1	
262	ヤマハ(株)	1		1	
263	(株)ユアサコーポレーション	1		1	
264	ユーアイ電子(株)	1		1	
265	横河アナリティカルシステムズ(株)			1	1
266	横河デジタルコンピュータ(株)	1		1	
267	(株)リコー	1		1	
268	リコーエレメックス(株)	1		1	
269	龍谷大学		1	1	
270	隆祥産業(株)	1		1	
271	ローム(株)	1		1	
272	ローランド(株)	2		2	
計		54	252	10316	
		13	13	25	
		III	IV	VI	XXIII

国の機関					
1	運輸省第五港湾建設局	①			①
2	大蔵省中国財務局	1			1
3	警察庁四国管区警察局	1			1
4	静岡岡大学			1	1
5	徳島大学	1			1
6	豊橋技術科学大学	1	I	2	
7	名古屋大学	①			①
8	北海道大学			1	1
9	宇部工業高等専門学校			1	1
10	託開電波工業高等専門学校			1	1
11	函館工業高等専門学校			1	1
計		2	2	6	10
		①	①	I	②

その他の公共機関等					
1	群馬県職員	1			1
2	福島県職員	①			①
3	静岡県警察	1			1
4	愛知県立西尾実業高等学校	1			1
5	豊橋市役所(愛知県)	1			1
6	函館市役所(北海道)	1			1
7	下山村役場(愛知県)	①			①
8	丸岡町役場消防署(福井県)	1			1
9	科学技術振興事業団			1	1
10	首都高速道路公団	1			1
11	日本放送協会	1			1
12	(財)岐阜県公衆衛生検査センター	1			1
13	(社)日本ネットワークインフォメーションセンター	2			2
14	(社)三重県水質保全協会	①			①
計		4	7	1	12
		②	①	③	

男子	学生	60261	17338
女子	学生	1615	31
留	学生	314	724
合計		79290	24393

(注) 1. ○印は、女子学生を表す。
2. ローマ数字は、留学生を表す。

特集 ラグビー部20周年を記念して

雲雀ヶ丘で楯円のボールとともに

豊橋技術科学大学ラグビー部創部20周年迎える

物質工学系14期 島田 拓人

●技科大ラグビー部の歩み

技科大ラグビー部は技科大開学3年後の1979年（昭和54年）に誕生しました。創部当初は、部員は13人で2人足りず、地元ラグビー愛好家の方々と合同で練習を続けていたそうです。

'81年から東海大学リーグに加盟しています。加盟当初は学部3・4年生だけのチームでしたが、'82年には修士学生の試合出場も認められ、Bリーグで2位の成績を挙げました。Aリーグ6位の愛知教育大学との入替え戦で、勝利を収め念願のAリーグ入りを果たしました。

その後、残念ながら健闘及ばず'88年以降Bリーグ、Cリーグに降格しています。'89年に修士学生の出場ができなくなりました。現在はCリーグ2部に所属しています。

技科大ラグビー部は、監督をおかずに、自分たちでつくる自主的なラグビー部を目指しています。勉学・研究が忙しい中、自分たちで方針を決め、チームを造り上げていくのです。

20周年を迎えた現在、OBは140名を越え、各地で活躍されています。昭和60年から、現役学生のバックアップを第一にとOB会が発足しました。



創部当時の技科大ラグビー部員

●20周年記念行事開催

技科大ラグビー部OB会では平成11年4月に記念行事として、技科大OBチームと創部当時練習を共にした地元のOVER35（35歳以上）チームの方々と交流試合を開催しました。会場となった岩田市民グラウンドには多くのOBが家族と一緒に全国各地から集まりました。

技科大OBチームは、創部当時のフィフティーンを中心にメンバーを組み、小雨の降る中、思いでの緑と黒のストライプのファースト・ジャージを身につけてボールを追い、懸命のタックルを見せ、年齢を感じさせないプレーで試合を盛り上げました。試合の結果、技科大OBチームが勝利を飾りました。

試合後、豊橋勤労福祉会館にて記念パーティーを開きました。愛知県ラグビー協会関係者の方々、豊橋地元チームの方々、OBが学生の頃からお世話になっている喫茶店や下宿の方にも列席していただき、OB、現役、総勢約120人で盛大に創部20周年を祝いました。20年の歩みを振り替えると共に、現役部員たちのこれからの活躍を祈念しました。現役部員たちは今後の活躍を誓ってくれました。

翌日には、現役学生チームと若手OBとが懐かし



よみがえる あのと き 技科大OB vs OVER35

い母校のグラウンドで対戦し、爽やかな汗を流し親睦を深めました。[表紙写真参照]

●これからの技科大ラグビー部

創部20周年に、花を添えるように朗報が飛び込んできました。それは再び大学院生の公式試合出場が認められたことです。技科大は、ご存じの通り3年生からの編入生が多く、一チーム15人を必要とするラグビー部では毎年、部員数や短期間でのチームづくりに悩んできました。これからは、院生、学部生が一体となって、一つの目的（リーグに臨む）ことができます。

この20年の間、いろいろな形で豊橋技科大ラグビー部を支えてくださった数多くの皆様方に、誌面上ではありますがこの場をお借りして深くお礼申し上げます。今後とも、よろしく願いいたします。

また、全国で活躍されている豊橋技科大の卒業生、修了生、並びに在校生の皆様、どうぞ豊橋技科大ラグビー部を汗臭いと思わず、何卒、ご支援のほどよろしく願いいたします。

ガンバレ！ 技科大ラグビー部！

現役の諸君が技科大ラグビー部ホームページを開設してくれました。

メッセージ等も受け付けています。一度のぞいてみてください。

アドレス：<http://www.whisky.eco.tut.ac.jp/tutrfc>

技科大ラグビー部部歌を紹介します。

『烈 風』

1. 烈風吹き荒れるグラウンドに

戦う我ら ここにあり

いざこの瞬間（とき）を燃え尽きん

ララ技科大 オオ技科大ラグビー部

2. 闘魂（たましい）宿したグラウンドに

集う我らここにあり

熱き思いを 伝えきらん

ララ技科大 オオ技科大ラグビー部

3. 雲雀鳴きしきるグラウンドに

翔くわれらここにあり

果てなき未来（あす）へ飛び立たん

ララ技科大 オオ技科大ラグビー部

ララ技科大 オオ技科大ラグビー部

『烈 風』

れ - ぶ う ふ き あ れ る グ ラ ン ド - に

た た か う わ れ - ら こ こ に あ り

い ざ こ の と き - を も え つ き ん ラ

ラ ギ カ だ い オ - オ ギ カ だ い ラ グ - ビ - 部 -

「豊橋技術科学大学ラグビー部15周年誌より」

クラブ活動への援助報告

同窓会では、クラブ活動の活性化に貢献することを目的とし、以下の2種類の資金援助を行っております。

- (1) 対外的にもっともよい成績を収めたクラブに贈られる「クラブ奨励金」
- (2) 活発な活動を行っており、最も資金援助が必要なクラブに贈られる「クラブ援助金」

平成11年度は、日本善行会より表彰を受けた豊橋日曜学校にクラブ奨励金が、また、リーグ戦Cリーグ2位、ラグビー祭セブンス大会優勝をはたしたラグビー部に、クラブ援助金がそれぞれ決定いたしました。

豊橋日曜学校

代表 橋 本 和 人

豊橋日曜学校は昨年をもちまして25周年を迎えることができました。部員全員がまた新たな気持ちで、活動に励んでいます。

日曜学校は、子ども40人と親40人、学生76人の計156人で活動しています。運動会やクリスマス会などの特別なイベントの時には日曜学校を卒業していった子どもも招待するので200人近いメンバーが一同に会することもあります。

私たちの基本的な活動は、毎月1度心身障害をもった子どもたちと一緒に楽しく過ごすことですが、子どもと学生のつながりが非常に強いために、平日も子どもの家で一緒に夕食を食べたり、お風呂に入ったりと交流を深めています。私たち学生は子どもたちを自分たちの弟・妹のように想っており、そこにはボランティアという概念はありません。この弟・妹たちは、心身障害をもっていない子どもたちよりも自分の感情を

コントロールすることが苦手です。ですから、この日曜学校で自分がどのような行動をすれば、周りの人がどのような態度をとるのか？ということ子どもたちは勉強しているのです。時として、子どもが活動中に日曜学校の備品（マジック・はさみ等）を壊してしまう場合があります。もちろん、子どもはお母さんに怒られますが、この日曜学校という場所で子どもたちが経験したこと（怒られたこと、嬉しかったこと、悲しかったこと）を、社会に出ていった時に生かしてもらえれば、それはそれで良いと考えています。

今回、同窓会からいただいた御援助はマジックやはさみなどの備品の補充に充てさせていただきます。

これからも、同窓会の皆様方のご期待にお応えできるよう、さらに努力してまいりますので、今後とも応援のほどよろしく願いいたします。

ラグビー部

浅 井 良 典

この度はラグビー部に同窓会からの御援助を頂き、ありがとうございます。

現在ラグビー部は、修士2年7名、1年3名、学部4年4名、3年7名、2年3名の24名で活動してい

ます。主な活動内容としては、3月初旬の理事長杯、4月の春のラグビー祭、6月初旬の慶應大学理工学部との定期戦、8月下旬の夏合宿、長岡技科大との定期戦、9月の秋のラグビー祭、そして10月、11月に本番のリーグ戦など年間を通じ活動しています。

我々技科大ラグビー部は東海学生リーグに所属しています。東海学生リーグはA、B、C1、C2の4部構成になっていて、現在C2リーグに所属しています。昨年度はC2リーグで6勝1敗で2位となり、入れ替え戦に臨みましたが、残念ながら敗退し、C2リーグ残留となりました。しかし、今年度リーグ戦から正式に大学院生の出場が認められ、チーム力は確実に上がりました。このため、リーグ昇格はほぼ間違いないと思われます。また、今年度の春のラグビー祭セブンス大会では、豊技大Aチームが優勝しました。

チームの運営の方針は、監督をおかず学生の自

主性を尊重し、自分達のラグビーをする、楽しいラグビーをする、柔軟な考えを持って練習に取り組み繰り返しの練習の中で、基本を身体にたたき込む、です。実際我々は、運営の全てを自分達で行っています。自分達で考え、話し合い、進めていきます。大変なことも多いですが、それだけにやりがいもあります。

また、ラグビー部は今年度で20周年を迎えました。先輩方の努力もさることながら、周りで応援して下さった方々のおかげだと思います。今後も自主性を重んじる姿勢を崩さず、部員全員でチームを作り運営、活動していきたいと思っています。

我々は技科大のクラブ活動の中でも最も活動している団体の1つであるという自負もあり、今回の御援助はそれを認めていただけたと受け止めています。これからも精一杯頑張っていきたいと思っています。ありがとうございました。

※関連記事 P18, 19、表紙

熱意ある

同窓会スタッフ

を求めます

- 応募資格 : TUT修了・卒業の方
(名古屋, 豊橋近郊)
- 勤務 : 年3回程度の会議
及び自宅での作業 (約30hr/年)
- 待遇 : 同窓会規定により優遇
交通費支給
- 問い合わせ先 : TUT同窓会事務局

同窓会事務局より会員の皆様へ

ご挨拶

同窓会会長（2系5期） 近藤 秀 範

(E-MAIL:kondo@hbr.co.jp)

同窓生の皆様におかれましては、益々ご建勝のこととお喜び申し上げます。

景気もようやく明るい兆しが見えはじめ、徐々に活気を取り戻しつつあるように思われます。これも一重に皆様のご活躍があったものと確信して、更なるご発展を期待しております。

しかしながら、いまだ世の中では企業で合併や提携など、社会の構造改革が進んでおります。文部省でも大学の独立行政法人化に向けての準備が着々と進みつつあり、技科大もいずれ独立法人となる見込みです。同窓会でもここ数年役員や各員の担当が同じであることから、一新を検討しているところです。同窓会から会員の皆様へ何かとお願いすることがあるかと思いますが、何卒ご協力の程お願い申し上げます。また、同窓会の仕事を手伝って頂ける方、興味がお有りの方がございましたら、ご一報下さい。ご意見・ご要望でも結構です。活気のある同窓会となるようご協力をお願いいたします。

また、来年度は同窓会名簿を発行する事になっております。前回は申し上げましたが、名簿を利用したと思われる様々な勧誘が横行するものと予想されます。同窓会では名簿の管理には厳重に期しており、漏洩など無いように心がけております。会員の皆様に置かれましても、名簿の取り扱いには充分ご配慮頂きますようお願いいたします。

皆様のご多幸とご活躍をお祈り申し上げます。

…………… 同窓会事業報告および予定（平成10年度～平成11年度）……………

1. 会報の発行

平成10年度の会報（16号）を、平成11年1月21日に発行・発送した。

2. 卒業記念パーティーの開催

新会員の同窓会活動への理解を深めてもらうために、在学生で構成される学友会との共催で、これまで毎年開催してきた。パーティーへの出資は、例年通り25万円とした。平成11年度についても、同様とする。

3. 技科大祭への資金援助

在校生へ同窓会の存在をアピールするために、平成6年度から技科大祭に資金援助を行っている。本年度も、例年通り、10万円の資金援助を行った。平成11年度も同額の援助を行う。

4. クラブへの資金援助

学友会を通じて対外的に最も成績や活躍が優秀なクラブにクラブ奨励金として5万円、資金援助の必要性の高いクラブにクラブ援助金として28,830円を支出した。平成11年度は10万円を予算として計上している。

5. 平成11年度から新たに行う事業

同窓会ホームページを計画している。また、既に役員間の連絡にはe-mailを活用し、会議回数の低減を行っている。

6. 役員会の実施

平成10年7月21日および平成11年6月26日に豊橋技術科学大学生産システム工学系にて役員会を開催した。これからも、ほぼ年1回の割合で役員会を実施してゆく。

7. 平成11年12月現在の同窓会役員名簿（※は、本学教官以外の役員）

名誉顧問：後藤圭司学長

1系（名簿、総会担当）：柳田秀記，感本広文

2系（事務一般・副会長）：近藤秀範（※，会長），橋爪 進（※），戸田裕之（事務一般，副会長），
矢野賢一，森田繁樹

3系（会計担当）：村本裕二，見目喜重

- 4系（ホームページ担当）：合志和洋，竹部啓輔，早坂太一
 5系（会報担当）：佐藤裕久，大北博宣，武藤浩行，斉戸美弘
 6系（総会担当）：山本一伸，野沢隆秀
 7系（ホームページ担当）：洪澤博幸，吉田 浩，加藤博明
 8系：野田怜治

会費の納入のお知らせ

本会の会費は平成4年12月から終身会費制となりました。つきましては、平成5年3月以降の卒業生，修了生で，入会費または終身会費が未納の方は，該当する系の振込先へ納入下さるようお願いいたします。

会 費

入会金 5,000円
 終身会費 10,000円

振込先

1系：郵便振込

口座番号 00830-1-133305
 加入者名 豊橋技科大エネルギー工学同窓会

2系：郵便振込

口座番号 00890-1-124555
 加入者名 豊友会

3系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 368127
 口座名 豊橋技術科学大学同窓会

4系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 368127
 口座名 豊橋技術科学大学同窓会

5系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 791362
 口座名 物質工学系同窓会

6系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 813330
 口座名 建設工学同窓会

7系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 368127
 口座名 豊橋技術科学大学同窓会

求む!

投稿・表紙!!

■表紙

写真，絵，グラフィックデザイン等何でもOK！
 ・サイズ：A4判程度に縮小，拡大可能なもの。
 ※CM的な要素のものを除く。
 採用の場合は薄謝を送付致します。

■投稿

26字／行 横書き 厳守
 その他：内容・長さは問いません。写真も添えていただければ幸いです。
 随時，受け付けますので下記まで送付下さい。

〒441-8580 豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1
 豊橋技術科学大学内
 豊橋技術科学大学同窓会事務局
 同窓会誌 編集係

■会員からの一言

同窓会では会員の皆さんからの原稿を常時募集しておりますが，執筆するとなると，それなりの内容とある程度の長さが必要であるということ，ついついかしこまってしまうのではないのでしょうか。そこでもっと気楽に投稿していただけるように，「会員からの一言」というコーナーを設けたいと思います。「結婚しました」とか「?月?日OB会開催」といった簡単な近況報告や連絡事項など，内容，長さは問いません。住所変更の通知や会費振替用紙の通信欄にでも結構ですし，もちろん葉書，封書で直接送っていただければ大歓迎。原則としてすべて掲載する予定ですので，どしどしお寄せください。投稿の際には，お名前，卒業あるいは修了年度，学科名をお忘れなく！

同窓会平成10年度収支報告および平成11年度予算案

項 目	平成10年度予算案	平成10年度決算	平成11年度予算案
■収入の部			
前年度繰越金	7,142,292	7,142,292	7,023,413
入 会 金	2,150,000	2,030,000	2,150,000
会 費	4,300,000	3,950,000	4,300,000
預 金 利 息	15,000	11,441	10,000
名 簿 代 金	0	3,500	—
同窓会報発送代行費用	900,000	804,411	900,000
小 計	7,365,000	6,799,352	7,360,000
収 入 合 計	14,507,292	13,941,644	14,383,413
■支出の部			
会 報 経 費	800,000	714,420	800,000
印 刷 代	760,000	686,420	760,000
原 稿 執 筆 御 礼	40,000	28,000	40,000
役 員 会 経 費	30,000	10,000	30,000
役 員 手 当	30,000	10,000	30,000
名簿購入代金返却代	0	2,000	—
名簿購入代金返却郵送	0	500	—
卒業記念パーティー援助金	250,000	250,420	250,000
技科大祭後援金	100,000	100,420	100,000
会報封筒作成代	120,000	156,420	—
名簿管理代	840,000	840,420	420,000
庶務経費	100,000	10,000	100,000
同窓会報発送代行費用	900,000	804,411	900,000
クラブ活動資金援助	100,000	79,220	100,000
各系への会費の配分金	4,300,000	3,950,000	4,300,000
小 計	7,540,000	6,918,231	7,000,000
次年度繰越金	6,967,292	7,023,413	7,383,413
支 出 合 計	14,507,292	13,941,644	14,383,413

* 豊橋技術科学大学同窓会会則 *

第1章 総則

- 第1条 本会は、豊橋技術科学大学同窓会と称する。
 第2条 本会は、本部を豊橋技術科学大学内に置く。
 第3条 本会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的とする。

第2章 事業

- 第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
 (1) 会員名簿の発行
 (2) 会報の発行
 (3) 総会の開催
 (4) その他、本会の目的を達成するために必要とされる事業

第3章 会員

- 第5条 本会は、次の会員をもって組織する。
 (1) 正会員 豊橋技術科学大学にかつて学籍を置いた者
 (2) 準会員 豊橋技術科学大学に現在学籍を置いている者
 (3) 特別会員 豊橋技術科学大学の現職及び退職教官
 (4) 賛助会員 本会の目的を賛助する個人または法人で、理事会において推薦された者
 2 本会会員は、その所在を変更の都度、本会に通知する義務を負う。

第4章 組織

- 第6条 本会に次の役員を置く。
 (1) 名誉顧問 (豊橋技術科学大学学長)
 (2) 会長 1名
 (3) 副会長 2名 (庶務担当)
 (4) 理事 原則として各系2名
 (5) 顧問 若干名
 第7条 本会の役員の出選は、次の各号に定めるところにより行う。
 (1) 名誉顧問は、現豊橋技術科学大学学長とする。
 (2) 会長、副会長は、正会員のうちから理事会の推薦を得て会員の承認を得る。
 (3) 理事は、正会員のうちから理事会が推薦した者及び会長の委嘱による者とする。
 (4) 顧問は、役員経験者もしくは特別会員のうち理事会において推薦された者とする。
 第8条 本会役員は任期は2年とする。但し留任は妨げないものとする。
 第9条 本会の議決機関として理事会及び総会を開催する。

第5章 役員

- 第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
 3 理事は、理事会において意見を述べ、事務局及び本会運営の責務を負う。
 4 名誉顧問および顧問は、本会の運営について助言を与え、会長の要請に応じて本会の会務に出席し意見を述べることができる。
 第11条 理事は、本会の次の具体的な業務の実行を担当する。
 (1) 庶務
 (2) 会計
 (3) 会報の編集、発行
 (4) 理事会、総会など重要な会務の開催及び召集
 (5) 会員名簿の管理

(6) 監査

- (7) その他、本会の事業全般
 2 各業務責任者は理事が担当し、業務遂行する。

第6章 理事会

- 第12条 理事会は、第6条に定められた役員により構成される。
 第13条 理事会は、会長の要請により庶務担当が開催の責務を負う。
 第14条 理事会は次の事項を審議する。
 (1) 本会の事業の運営に関する事項
 (2) 事業報告及び決算報告
 (3) 事業計画案及び予算案
 (4) 賛助会員の推薦に関する事項
 (5) その他、本会の運営に関する議案
 第15条 理事会の議決は、理事会に出席している役員の過半数の賛成を必要とし、可否が同数のときは、議長が決める。理事会の議長は会長が務める。理事会に欠席した役員は、出席している役員に意見を述べたものとみなす。

第7章 総会

- 第16条 総会は、定期総会と臨時総会とし、会長が召集する。
 2 定期総会は、4年に1回開催することを原則とする。
 3 臨時総会は、会長が、その必要を認められた時、開催する。
 4 会長は、総会を召集するとき、事前に文書で正会員に通知しなければならない。
 第17条 総会は次の事項を審議し、承認または議決する。
 (1) 会則の制定・改廃
 (2) 事業計画及び収支予算案
 (3) 事業報告及び収支決算案
 (4) その他、本会の運営に関し重要な事項
 第18条 総会の議事は、出席正会員の過半数で決める。可否が同数のときは会長が決める。議長は、会長が務める。

第8章 会計

- 第19条 本会の運営に必要な経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。但し、必要に応じ、理事会での議決、総会での承認を得て臨時費を徴収することができる。
 第20条 本会の正会費は、次のとおりとする。
 (1) 入会金 5,000円
 (2) 終身会費 10,000円
 2 会費の納入は入学時に一括して行う。在学中は、準会員としての資格を得る。
 第21条 既納の会費は原則として返納しない。但し、準会員が、卒業もしくは修了以前に学籍を離れる場合に限り、半年以内に請求があれば、返納する。その場合、会員資格を失う。
 第22条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月末日に終る。

第9章 雑則

- 第23条 本会会則の改訂は、理事会の議決を経て総会の承認を必要とする。
 第24条 本会会則施行に必要な事項は、理事会の議決を経て会長が定める。

付則

- 1 本会則は、平成4年12月19日の総会において会則改訂の承認を得て、平成4年12月20日から施行する。
 2 平成4年度及び5年度在学生会は、第20条における会費の納入を卒業、修了時に一括して納入する。

同窓会会員名簿第4号注文のご案内

平成12年10月に同窓会会員名簿第4号を発行する予定です。会員間の交流、情報交換に役立てて頂ければと存じます。前号から教官連絡先として各教官の直通電話ならびにE-mailアドレス一覧を付しており、母校との連絡にも便利かと思えます。また、今回からサイズがA4に変更されます。

以下の申込要領をご覧の上、是非ご注文下さいますようお願い申し上げます。

お申込要領

代 金 4,000円 (送料・振込料込)

申込期限 H12年8月末日

同封の振替用紙をご利用の上、お近くの郵便局で代金を同窓会までお振り込み下さい (口座番号00840-8-47418)。なお会員名簿は振替用紙に記載された住所へ送付いたしますので、振替用紙には、住所、氏名、電話番号を正確にご記入下さい。

また、氏名の下に出身系、卒業・修了年のご記入もお願いいたします。

広報担当者 様

豊橋技術科学大学同窓会誌広告掲載のご依頼

拝啓、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、当同窓会では、より円滑な運営を図るべく、同窓会誌に広告を掲載することに致しました。

つきましては、下記のように掲載広告を募集していますので、広報担当者にお口添えくださいますようお願い申し上げます。

発行後、見本として5冊は無料でお送りしますが、その他は有料（500円／冊）となります。6冊以上必要な場合は版下送付の際にお申し添え下さい。

ご多忙中、お手数をお掛け致しますが、宜しくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

敬 具

1999年12月15日

豊橋技術科学大学同窓会 会長 近藤 秀範

記

- ◎同窓会誌： A4判，30ページ程度，白黒
 - (1) 内容……学内近況報告，研究室紹介 等
 - (2) 発行……年1回
 - (3) 部数……約7500部 *今後500部／年で増加
- ◎広告掲載料： 5万円／1ページ，3万円／0.5ページ
- ◎送付先： 豊橋技術科学大学同窓会
〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1
- ◎締め切り： 2000年10月末日
- ◎支払い方法： 銀行振込 *発行後，請求書をお送りします。
- ◎問い合わせ先： 下記まで郵送にてお願いします。
〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1
豊橋技術科学大学同窓会 会報担当

.....

同窓会事務局より 会員の皆様への御留意

最近、本学同窓会会員に対して「各種の勧誘」が頻繁になされているとの情報が入っております。豊橋技術科学大学同窓会事務局では、名簿データの管理は厳重にしており、これまで部外者への名簿の譲渡や貸し出しは一切行っておりません。従いまして、これらの勧誘には本学同窓会事務局は一切関わりないことを御断わりするとともに、会員の皆様におかれましても、十分注意していただくことをお願い申し上げます。

豊橋技術科学大学同窓会事務局

.....